

陳 情 書 等

件 名

宇治市の茶業振興の在り方等について

宇治市議会議員様

陳情書

梅木春幸

【件名】宇治市の茶業振興の在り方等について

【陳情内容及び宇治市議会議員に求めることについて】

宇治市が行っている「高品質茶ブランド力強化事業」そのものは、例えば手摘み茶推進対策 (<https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/46315.pdf> 『令和7年度宇治市農業関連補助事業しおり』p20) 等、宇治市の茶生産の振興に寄与するものです。実際、例えば前記手摘み茶推進対策についてであるが、令和6年度の宇治市の茶生産量については311,079kgの生葉生産量の内、233,804kgと実に75.1590432012%が碾茶であり、その碾茶も全て一番茶であり (<https://www.pref.kyoto.jp/nosan/documents/r6chachosa1.pdf> 『I 令和6年度 京都府産茶の生産・流通状況等に関する資料(旧 京都府茶業統計)』9コマ目)、宇治市の茶園の大部分が手摘みの自然仕立てであることが推認されます。しかし、凍霜害対策の補助として防霜ファンの設置、スプリンクラーの設置に補助金を出す (<https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/46315.pdf> 『令和7年度宇治市農業関連補助事業しおり』p23) というのは宇治市の茶生産の振興にどれ程寄与するか甚だ疑問です。

令和6年度の宇治市の茶生産量(生葉) 311,079kgの内、玉露 59,772kg、碾茶 233,804kg (<https://www.pref.kyoto.jp/nosan/documents/r6chachosa1.pdf> 『I 令和6年度 京都府産茶の生産・流通状況等に関する資料(旧 京都府茶業統計)』9コマ目)と宇治市の茶生産量(生葉)の内94.373454974%が覆下栽培です。そして、覆下栽培ではその栽培方法の特性上、寒冷紗、よしず等の被覆資材で茶園を覆うことにより晩霜害を防ぐ被覆法(地面或いは茶株面からの熱線放射を被覆物によって阻止する方法 (https://www.jstage.jst.go.jp/article/cha1953/1967/28/1967_28_45/_pdf 杉井四郎・築瀬好充・田中静夫・吉川茂「茶園における凍霜害防止のための被覆資材の検索」の「4.1 直接被覆に用いるための条件」の件))が従来より用いられています。一方で、スプリンクラーを使用する散水氷結法は水が氷に変わる際の潜熱を利用し、次々と水滴が付着することにより、放射や潜熱で失う熱量を補給し、樹体温を0°C前後に保温することにより霜害を防ぐ (https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsidre1965/55/8/55_8_739/_pdf/-char/ja 穴瀬真、徳比斗志、百濟輝久、莊林幹太郎、村田雄剛、八木武則、青野英也「散水氷結法による茶園の凍霜害防止」の「I. 散水氷結法の原理」の件) というものであり、当然一晚中散水しなければならず、仮に補助金で初期費用をクリアしても、水道代が嵩み、態々被覆法に追加して散水氷結法を用いる利点は薄いです。防霜ファンを使用する送風法にしても、地面あるいは地上 附近の幅野放熱によって生ずる気温の逆転層を人為的に乱流を起こさせ、逆転層を破壊し気温を上昇させる方法 (https://www.jstage.jst.go.jp/article/cha1953/1958/12/1958_12_20/_pdf/-char/en 高橋恒二・青野英也・田中静夫・築瀬好充「茶樹の凍霜害に関する研究(第3報)送風法による凍霜害防除について」) であり、当然一晚中防霜ファンを稼働させねばならず、例え補助金により初期費用をクリアしても電気代が嵩み、やはり覆下栽培が90%以上を占める宇治市の茶農家にとって利点は薄いです。このようにしてみると凍霜害対策の補助として防霜ファンの設置、スプリンクラーの設置に補助金を出すというのは愚策と言わざるを得ません。実際、「高品質茶推進事業補助金」の凍霜害対策は平成22年度に1件(面積にして10a) (<https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/6614.pdf> 宇治市『平成22年度歳入歳出決算にかかる主要な施策の成果説明書』p54)、平成23年度に2件(面積にして23.0a) (<https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/6613.pdf> 『平成23歳入歳出決算にかかる主要な施策の成果説明書』p51)、平成28年度に1件(面積にして40.0a) (<https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/6608.pdf> 『平成28年度歳入歳出決算にかかる

主要な施策の成果説明書』p 51)、平成 30 年度に 1 件(面積にして 18.0a) (<https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/19964.pdf> 『平成 30 年度歳入歳出決算にかかる主要な施策の成果説明書』p 51)、令和元年度に 1 件(面積にして 10.0a) (<https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/19962.pdf> 『令和元年度歳入歳出決算にかかる主要な施策の成果説明書』p 50) 実施があった他は令和 6 年度まで実績ゼロです (<https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/6612.pdf> 『平成 24 年度歳入歳出決算にかかる主要な施策の成果説明書』p53) (<https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/6611.pdf> 『平成 25 年度歳入歳出決算にかかる主要な施策の成果説明書』p54) (<https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/6610.pdf> 『平成 26 年度歳入歳出決算にかかる主要な施策の成果説明書』p 53) (<https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/6609.pdf> 『平成 27 年度歳入歳出決算にかかる主要な施策の成果説明書』p 53) (<https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/6607.pdf> 『平成 29 年度歳入歳出決算にかかる主要な施策の成果説明書』p48) (<https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/31445.pdf> 『令和 2 年度歳入歳出決算にかかる主要な施策の成果説明書』p 57) (<https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/38311.pdf> 『令和 3 年度歳入歳出決算にかかる主要な施策の成果説明書』p 52) (<https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/38318.pdf> 『令和 4 年度歳入歳出決算にかかる主要な施策の成果説明書』p64) (<https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/43879.pdf> 『令和 5 年度歳入歳出決算にかかる主要な施策の成果説明書』p64) (<https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/48716.pdf> 『令和 6 年度歳入歳出決算にかかる主要な施策の成果説明書 p69』)。よって、「高品質茶ブランド力強化事業」の内、凍霜害対策に係る部分は廃止して浮いた予算を別のこと、例えば手摘み茶推進対策等に回すべきです。

議員各位はまずこのことを質して下さい。

また、そもそもこのような愚策が産まれるのは宇治市職員に農学、農業についての技術職員がいない(「宇治市職員採用情報(採用情報 過去の試験結果)」(<https://www.city.uji.kyoto.jp/soshiki/54/6782.html>)を見たが、貴庁が農業の技術職を採用した形跡が認められない。)からです。よって、農業技術職の採用を行うべきです。なお、農業技術職ですが、専門試験の問題は単に国家公務員一般職(大卒程度)の農学の専門試験の問題を模倣するだけではいけません。

何故なら、日本全国を見た場合と宇治市を見た場合では農業事情が異なるからです。

令和 5 年において、全国の農業総産出額は 94,952 億円ですが、この内茶は 443 億円(0.46655152076%)に過ぎません(「令和 5 年生産農業所得統計」(<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00500206&tstat=000001015617&cycle=7&year=20230&month=0&tclass1=000001019794&tclass2=000001227383>)の「全国推計統計表(累年)」の「年次別農業総産出額及び生産農業所得」の「実額」(<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000040262909&fileKind=0>))。

一方、宇治市の令和 5 年の農業産出額は 1,020,000,000 円ですが、この内茶は 130,000,000 円(12.745098039%)を占めます(「令和 5 年市町村別農業産出額(推計)」(<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00500249&tstat=000001108355&cycle=7&year=20230&month=0&tclass1=000001108375&tclass2=000001227205>)の「京都府」(<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000040260608&fileKind=4>))。

このように、宇治市は全国と異なり農業産出額の 12.745098039%を茶が占めており、したがって茶に高い知見を持った職員の登用が急務です。しかし、そのような人材は農業・農学全般の知識を問う国家公務員一般職(大

卒程度)の農学の専門試験の問題で選別することは不可能です。そこで、国家公務員一般職(大卒程度)の農学の専門試験の問題を模倣した問題と併せ、例えば瀧之上康元、瀧之上弘子 著、農山漁村文化協会発行『日本茶全書：生産から賞味まで』、

小泊 重洋、多々良明夫、小杉由紀夫、西島卓也共著『新・目で見える茶の病虫害』からの出題で茶の栽培、生産に関する基礎知識を問い、「京都府産茶の生産・流通状況等に関する資料(旧京都府茶業統計)」(<https://www.pref.kyoto.jp/nosan/chagyotokei.html>)の内宇治市に関する処を出題して宇治市の茶生産の現状認識を問うという独自の問題を入れるべきです。

なお、この場合において、農業・農学全般を問う試験科目と茶の専門知識を問う試験科目は分けて行うべきです。試験方法としては、一次試験で茶の専門知識を問う科目(五肢択一)を3、農学全般を問う科目(五肢択一)を2、基礎能力試験を1、小論文(二次試験で採点)を1の比率とする。

二次試験では面接(比率1)を課す。

なお、一次試験の持ち点は二次試験に持ち越す。

まず、一次試験合格者は次の式の値が大きい順に決する。

茶の専門知識を問う科目の偏差値×3+農学全般を問う科目の偏差値×2+基礎能力の偏差値×1

但し、何れかの科目の偏差値が30以下又は正答率30%未満は不合格

二次試験の合格者は次の式の値が大きい順に決する

一次試験合格者決定に使用した式の値+面接の偏差値×1+小論文の偏差値×1

但し何れかの科目が偏差値30以下の場合は不合格。

右の如く合格者を決するのが宜しいかと存じます。

議員各位には宇治市当局への提言を望みます。

なお、参考までに「茶の専門知識を問う科目(五肢択一)」を自作しましたので、そちらも添付します。

問1 次の空欄に入る語句の組み合わせ内正しいものはどれか

「チャは好酸性が (A)、生育に適した土壌 pH は(B)である。また、チャの経済寿命は栽培管理の方法、摘採頻度等によるが、全国一般的には (C) 前後である。」

	A	B	C
1.	低く	6.5～7.0	5年
2.	高く	4.0～5.0	10年
3.	低く	6.9～7.0	20年
4.	高く	4.0～5.0	30年
5.	高く	4.0～5.0	60年

【解答】

4

問2 次の空欄に入る語句の組み合わせ内正しいものはどれか

「令和元年度において、全国の茶園面積の内 71.5%を (A) が占める。なお、令和元年度宇治市においてチャの摘採面積に占める (A) の割合は約 (B) %である。」

	A	B
1.	あさひ	70
2.	さみどり	60
3.	あさひ	50
4.	やぶぎた	40
5.	やぶぎた	28.68

【解答】 5

【 解 説 】 全 国 の そ れ は こ ち ら
(<https://www.maff.go.jp/tokai/seisan/engei/tea/attach/pdf/index-2.pdf>) の 2 枚 目
を 参 照 の 事 と す 。 な お 、 宇 治 市 の 令 和 元 年 に お け る チ ャ の 栽 培 面 積 は 64.7ha で あ る が 、
そ の 内 や ぶ ぎ た は 18.5ha で あ る
(<https://www.pref.kyoto.jp/nosan/documents/r1chachosa1.pdf> 「 I 令 和 元 年 度
京 都 府 産 茶 の 生 産 ・ 流 通 状 況 等 に 関 す る 資 料 (旧 京 都 府 茶 業 統 計) 」 7 枚 目)

問3 次の空欄に入る語句の組み合わせとして正しいのはどれか

「農業生産を目的とした茶樹の仕立て方には摘採までに複数回整剪枝を行う (A) と一番茶摘採直後に強剪定を行い、次年の一番茶摘採まで整剪枝を行わない (B) がある。」

	A	B
1.	鋏摘み仕立て	自然仕立て
2.	自然仕立て	鋏摘み仕立て
3.	駿河仕立て	山城仕立て

4. 牧之原仕立て 宇治仕立て
5. 宇治仕立て 牧之原仕立て

【解答】 2

【解説】 山下 幸司・竹本 哲行「自然仕立て茶園におけるチャ3品種の葉および枝条の調査」(https://www.jstage.jst.go.jp/article/cha/2022/133/2022_35/_pdf/-char/ja)の「1. 緒言」を参照

問4 次の文章の空欄の組み合わせとして正しいものを選び

「令和6年の宇治市の荒茶生産金額の内84.545873122%が(A)を占め、13.335379708%が(B)を占め、1.205177828%を(C)が占める。」

	A	B	C
1. 煎茶		玉露	碾茶
2. 碾茶		煎茶	玉露
3. 碾茶		玉露	煎茶
4. 玉露		碾茶	煎茶
5. 玉露		煎茶	碾茶

【解答】 3

【解説】

令和6年の荒茶生産金額は534,278,000円であり、その内碾茶は451,710,000円(84.545873122%)、玉露71,248,000円(13.335379708%)、煎茶6,439,000円(1.205177828%)である。
(<https://www.pref.kyoto.jp/nosan/documents/r6chachosa1.pdf> 「I 令和6年度京都府産茶の生産・流通状況等に関する資料(旧京都府茶業統計)」11枚目)

問5 次の文章の空欄に入る言葉として正しいのはどれか。

「塘二郎氏・淵之上康元氏・淵之上弘子氏著「茶樹の自家受精に関する研究」に拠れば、昭和22～26年に渡る埼玉県茶業研究所での茶樹の自家受粉による結果率は(A)%、他家受粉による結果率は29.5%である。このような事情から、茶の生産現場での茶樹の繁殖は主に(B)に拠る。」

	A	B
1. 2.2		種子繁殖
2. 30.2		挿し木繁殖
3. 2.2		接木繁殖
4. 30.2		取木繁殖
5. 2.2		挿し木繁殖

【解答】 5

【解説】

茶樹の自家受粉の結果率については塘二郎氏・淵之上康元氏・淵之上弘子氏著「茶樹の自

家 受 精 に 関 す る 研 究 」

(https://www.jstage.jst.go.jp/article/cha1953/1956/7/1956_7_14/_pdf/-char/ja) の「2,実験 方法並びに成績」の「1.自・他家授粉による結実歩合」を参照のこと。自家受粉での結果率僅か 2.2%で種子繁殖を行うこと自体愚の骨頂である。よって、1は不正解である。「チャの増殖において遺伝的特性を維持できる取り木や挿し木による栄養繁殖を用いることが不可欠となる。その中で挿し木は、取り木に比べて増殖率が高く、チャの繁殖にとって有効な方法である。本格的な挿し木の研究は、1950年頃以降、数多くの試験が行われ、現在では簡便で実用的な技術となっている。」

(<https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2010791914.pdf> 中村順行「チャの組織培養による大量増殖法とポット育苗技術に関する研究」の「序文」)

問6 次の空欄に入る言葉として最も適切なものを選べ

「京都府産茶の生産・流通状況等に関する資料(旧京都府茶業統計)」に拠れば、宇治市における平成15年から令和6年までの各年の一番茶碾茶の1kg当たりの平均単価(荒茶生産金額を荒茶生産量で割って求める)は(A)。」

1. 平成15年の6754.683301円から令和2年の3931.561377円まで乱高下を繰り返しながら下落し、その後は令和6年の7356.10546円まで高騰した。
2. 平成15年の6754.683301円から令和2年の3931.561377円まで乱高下を繰り返しながら下落し、その後は令和6年の11999.84061円まで高騰した。
3. 平成15年の6754.683301円から令和6年の11999.84061円まで上昇傾向にある。
4. 12000円前後を推移している。
5. 平成15年の12061.20219円から一貫して下落を続けている。

【解答】4

【解説】各年の碾茶生産単価の推移は下表及びグラフの如し。

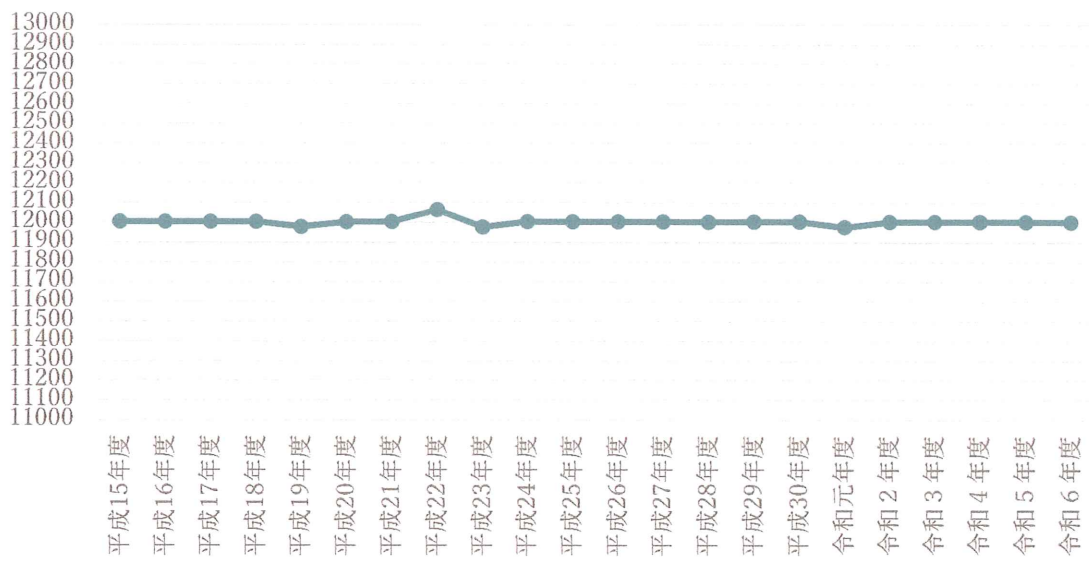
年度	荒茶(碾茶)生産金額(千円)	一番茶碾茶荒茶生産量	kg単価(円)
平成15年度	543,096	45,258	12000
平成16年度	511,368	42,614	12000

平成 17 年 度	521,592	43,466	12000
平成 18 年 度	473,712	39,476	12000
平成 19 年 度	528,531	44,139	11974.24047
平成 20 年 度	521,311	43,443	11999.88491
平成 21 年 度	497,460	41,455	12000
平成 22 年 度	496,620	41,175	12061.20219
平成 23 年 度	505,884	42,250	11973.5858
平成 24 年 度	501,217	41,768	12000.02394
平成 25 年 度	515,147	42,929	11999.97671

平成 26 年 度	494,273	41,189	12000.12139
平成 27 年 度	499,900	41,658	12000.09602
平成 28 年 度	501,403	41,784	11999.88034
平成 29 年 度	501,216	41,768	12000
平成 30 年 度	502,344	41,862	12000
令和元年 度	411,490	34,368	11973.05633
令和 2 年 度	412,045	34,337	12000.02912
令和 3 年 度	439,692	36,641	12000
令和 4 年 度	436,919	36,410	11999.97254

令和5年 度	397,372	33,114	12000.12079
令和6年 度	451,710	37,643	11999.84061

kg単価 (円)



<https://www.pref.kyoto.jp/nosan/chagyotokei.html>